

ふれあいの館



地元の農家が持ち込んだ新鮮野菜が買える、丹生大師前のお店。伊勢いも、しいたけ、日本茶など丹生・多気の名産品も並びます。

●8時30分～18時
(10～3月は17時まで)

●火曜休
(21日が火曜の場合は翌日休)

大師の里メダカ池

荒れた休耕田の水田機能を維持すること、年々減り続けるメダカを育てることを目的として田んぼにビオトープが作られました。毎年「しろかき(土の攪拌)」をして手入れした田んぼには、たくさんのメダカが泳ぎ、ホテイアオイが茂る理想的な生態系があります。8月上旬にはホテイアオイの美しい青い花が咲き、9月には「大師の里メダカまつり」が開催されます。



立梅用水(あじさいの小径)



丹生の町を支えてきた全長30kmの立梅用水は、約200年前、柳田川をせきとめ、延べ25万人近くの人が力を尽くして作り上げた農業用水です。豊かな水が流れることで、たくさんの米がとれるようになり、農民の生活を安定させました。近年、この用水をさらにしっかりと守っていくと、用水脇にあじさいを植えるなど、地元の人々がさまざまな活動を行っています。



水銀抗跡



奈良時代から昭和時代まで断続的に水銀が掘られていたため、丹生のまちなちこちに、水銀抗跡が残っています。



丹生のまち
古代から栄えた
由緒あるまちの息吹が
あちこちに

奈良時代に水銀が発見され、まちは大変栄えました。仏像や調度品の金具、メッキ、顔料の材料などに使われた水銀は貴重で、当時日本で作られた水銀のほとんどがこの丹生で採掘され、奈良の東大寺大仏にも使われました。丹生のまちなちこには全国から商人や鉱夫が集まり、大変な賑わいを見せたといえます。中世になると、だんだん水銀産出量が減り、町も衰退していききました。しかし近世になると伊勢商人発祥の地、丹生大師の門前町、宿場町として再び栄え始めます。多くの宿場や寺院がそのまま残り、今も当時のにぎわいを感じられます。

丹生を水と土と花でうるおす地域運動の祭典

彦左衛門のあじさいまつり

自然の保全と活用を目的に、1993年から始められた「あじさいいっぱい運動」。立梅用水沿いなどに合計1万本以上植えられ、丹生はあじさいの名所になりました。この運動を象徴するお祭りが、6月に行われる「大師の里 彦左衛門のあじさいまつり」。立梅用水(水)、田んぼ(土)、緑豊かな資源空間(里)を舞台に、これらの恵みに感謝する「水土里(みどり)の祭典」です。

彦左衛門とは、江戸時代の丹生の地土・西村彦左衛門のこと。彼が私財を投じて立梅用水の建設や新田開発に尽くしたことからこの名がつけられました。

山々や木々、そしてあじさいが生命力をみなぎらせる初夏のこの場所で、さまざまなイベントを通して、町内外の人の交流をはかります。



「あじさいまつり」最大のイベント、用水ボート下り。



泥まみれになりながら30mの網を引き合う網引きは、休耕田の新しい活用法。



ビオトープでコンサートも開かれる。

第15回「大師の里 彦左衛門のあじさいまつり」

6月12日(日) 9:00～15:30(雨天決行)

- 場所／丹生大師の里周辺
- 主催／あじさいまつり実行委員会(TEL 0599-49-7077)
- 協賛／多気町勢和地域資源保全・活用協議会

予定イベント

相可高校食物調理科野外レストラン、お菓子コーナー、まめやの農村料理、特産品販売、田んぼのコンサート、立梅用水ボート下り、餅まき、よさこいソーランフェスティバル、他

三重の
元気で
おいしい

お店

せいわの里 まめや

勢和大豆と野菜のおいしさを 一躍ひろめた農村料理バイキング

「勢和でとれる大豆や米をもっと食べてほしい」。地域住民による農村料理バイキングのお店「まめや」がオープンしたのは平成17年。こんな田舎にバイキング?と、始める前は反対意見が大多数だったというのが信じられないほどの、今では大人気店となりました。揚げたておあげさん、あじご飯、味噌汁、天ぷら、煮豆など、勢和の素材を使った、なつかしい田舎料理がずらり。大豆畑を見渡す眺めも素敵です。



おかず、ごはん類からデザートまで、常時25～30種が並びます。大人1,000円、小人(4歳～小学生)500円

隣にある直売所では、大豆加工品も販売。とくに「おあげさん」はおいしいと評判です。



勢和で農業を営む住民の共同出資で生まれました。平成20年度「立ち上がる農山漁村」に認定されるなど、地域おこしの成功モデルとしても注目されています。



- 三重県多気郡多気町丹生5643
- TEL 0598-49-4300
- 10時～17時(バイキングは11時～14時)、木曜休
- http://www.ma.mctv.ne.jp/~mameya/